大和浜（やまとはま）のオキナワウラジロガシ林（りん）

【所　在　地】大島郡大和村大和浜
【種　　別】国指定天然記念物（植物）
【指定年月日】平成２０年３月２８日

オキナワウラジロガシは奄美大島から西表島までの非石灰岩地のみに分布する琉球列島固有のブナ科の常緑高木で，琉球列島の代表的な森林を形成している。本種の樹幹は通直で板根がよく発達し，板根は船の舵，材は建築材として利用されてきた。しかし，戦後の森林伐採により北限域の奄美大島ではまとまった森林はほとんど残されていない。

指定地は大和村大和浜の裏山に当たり，南東に面した谷部凹地斜面で，集落のある平坦地から急激に立ち上がった斜面である。尾根筋のスダジイ自然林に囲まれるように生育し，面積約1.5 ha 内に100本程度が生育している。樹高30m近く，胸高直径１m以上の個体も見られ，よく発達した森林を形成している。通称滝川山（たきのこやま）と呼ばれる神山で，上水道施設ができるまでは水源涵養林として，また斜面崩壊から集落を守る森林として大切にされ，戦後の混乱期に周囲の山林が伐採されたときも，滝川山は伐採を免れてきた。

このように，聖域として大切に守られてきた琉球列島の代表的森林であり，北限域の奄美大島で数少ないオキナワウラジロガシの自然林として学術的価値が高く重要である。